

「諸鈍小・中学校の諸鈍シバヤ伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立諸鈍小・中学校

2 学年・人数

小・中学生男子 10人

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所 10月下旬（4回）諸鈍小・中学校体育館
- (2) 発表の日時・場所 令和3年10月31日（日）諸鈍小・中学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

- (1) 名称 諸鈍シバヤ（しょどんしばや）
- (2) 由来

奄美大島の南，加計呂麻島（かけろまじま）の諸鈍集落に伝わる諸鈍シバヤは，源平の戦いに敗れて落ちのびて来た平資盛（たいらのすけもり）一行が，土地の人々と交流を深めるために伝えたのが始まりと伝承されている。旧暦9月9日に諸鈍集落の大屯神社で披露されてきた。

- (3) 構成等

出演者は全員男性のみで構成され，手製のカビディラという紙面と，陣笠風（じんがさふう）の笠をかぶり，囃子（はやし）と三味線（しゃみ）の伴奏にのって演じる。（今年度は学習発表会で，CDの音声に合わせて演舞。）

かつて20種余りあったという演目は，即興的狂言，人形劇を含めて現在では11演目が受け継がれている。

小中学生もかつては，諸鈍集落の児童生徒のみが参加していたが，現在では諸鈍集落以外の児童生徒も参加している。

5 保存会や地域との連携の具体

シバヤ保存会の方に指導を受けて，諸鈍シバヤの歴史を学び，踊りの練習を行った。保存会との連絡は教頭が窓口となって連絡を取っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で，2年連続の大屯祭の休止のため，今年度も，学習発表会へ向けて合計4回練習をして，保存会の方からの指導を受けた。放課後に，30分から40分程度，教職員と保護者の見守る中，練習を行い，伝統芸能の継承に取り組んだ。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

例年は，児童生徒と男性教職員が演目を披露していたのだが，今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で大屯祭が中止になり，大屯神社で披露することができなかった。そこで学習発表会で披露することになった。より諸鈍シバヤに対する理解を深めるために，瀬戸内町図書館・郷土館学芸員の町健次郎氏を講師に招き，シバヤの歴史について，講演していただいた。これらの活動を通して，島唄・島口・諸鈍シバヤが地域に絶えず受け継がれてきていることを再確認し，地域を大切にするとともに，伝統文化を守り伝えていこうとする態度

の涵養に取り組んでいる。

7 取組の様子



体育館での練習風景



保存会会長による指導



参加した児童生徒たち



学習発表会での披露

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

- ・ これからもみんなで力を合わせて諸鈍シバヤを守っていきたい。

【教職員】

- ・ 児童生徒たちのシバヤへの思いが伝わったとてもいい演舞だった。

【保存会から】

- ・ 毎年途切れないようにせめて学校でも踊る機会があってよかった。
進学や就職で島を離れてもいつか古里に戻って伝統を引き継いでほしい。

【地域の方から】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で大屯祭が中止になり寂しかったが、児童生徒たちの様子を見て、元気をもらった。